

課題名：機械収穫の実現と省力栽培体系の普及（タデ藍）

ねらい

阿波藍は徳島県の伝統工芸で、その染色原料は工芸作物のタデ藍から生産されています。しかし、タデ藍栽培は農家の高齢化と収穫が重労働なため、農家戸数と栽培面積が減少しています。これに伴い、旧来の使用用途である高級染色原料「すくも」へのタデ藍の供給不足と、新規用途である木材染色や皮染色などへの原料供給ができなくなってきています。

以上のことより、収穫作業の負荷軽減を目指し、機械収穫に適した品種「干本」の活用と他品目用収穫機の流用を検討し、タデ藍の機械収穫体系を実現させます。併せて、除草作業の省力化をはかり、省力栽培体系を検討し、栽培技術の周知を行います。特に吉野川市で新しく耕作を始める生産者団体が出てきているので、重点的に指導して行きます。これらにより、タデ藍の作付け面積の拡大を図り、旧来用途、新規用途ともに十分な原料供給を実現します。

活動地域・対象

県内全域

普及活動の目標

機械収穫導入 0.5ha

目標に向けた活動概要

- ・機械収穫体系検討
展示圃（刈り取り試験、品種比較試験） 2カ所
- ・除草作業省力化検討
展示圃（大麦刈り取り栽培、除草剤登録検討用） 2カ所
- ・省力栽培体系導入検討会（展示圃実施状況の説明と導入技術の説明） 2回
- ・現地検討会及び作業性評価（機械収穫時および省力栽培の現地を視察・検討及び作業性を測定することによるの評価） 4回
- ・栽培講習会 省力栽培体系の展示圃実績と栽培説明を県内3ヶ所で開催 3回
- ・情報収集（機械開発を行う独立行政法人農研機構からの助言） 1回
- ・成績発表会の開催（H26の実績を周知） 1回

普及活動の成果

- 機械収穫導入
0.2ha/0.5ha 達成度40%
- 改良収穫機の開発に目途が立ちました。
- 除草剤登録に向けて目途が立ちました。



タデ藍除草剤展示圃

機体寸法	全長(mm)	1390 (ハンドルからデバイダ先端)
	全幅(mm)	1100
	全高(mm)	1140
機体質量(kg)	40	
刈取り部	背負い式ヘッドリザーブ利用	
	ゼノア KH2050 E2 混合ガソリン25:1	
最大刈幅(mm)	630	
刈高さ	最高(mm)	100
	最低(mm)	90
送風部	エンジン式ブロー利用 (吹き出し角度調整有)	
	マキタ EB04200SP 無給ガソリン	
フレーム	アルミ製の機台車 (ハラクックスRA-200)	
軸距(mm)	782	
タイヤ(インチ)	14	



タデ藍簡易収穫機



刈り高さ調整用のボルト

タデ藍簡易収穫機諸元

用語
説明

今後の発展方向

- 今年度改良収穫機の開発にほぼ目途が立ちました。次年度は数台を新規栽培農家に貸し出して評価してもらう計画です。(農産園芸研究課で国補研究プロジェクトに応募予定)
- 除草剤の登録に目途が立ったので、次年度農薬登録に向け本格的な試験に移して行きます。

関係者からの声

(藍師)

- 現在、使用している機械は古く、現在製造がないため、後継機を開発してもらいたい。開発機はきれいに刈れるが、既存機に見劣りする。結束機能をつけてもらいたい。等の意見がありました。

(藍関連企業)

- 開発機は操作性が容易で、女性でも刈れそうで助かる。次年度、是非新規栽培農家の現地圃場で試したい。等の意見がありました。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel: 088-674-1922